

16才
子供じゃないめ♡

小林深雪



小林深雪 (こばやし・みゆき)

講談社X文庫

1964年3月10日生まれ。うお座のA型。

武蔵野美術大学デザイン科卒業。

少女のための小説を書いたり、

雑誌に音楽の記事を書いたり、

アイドルの写真集にコピーを書いたりしています。



16才♡子供じゃないの

小林深雪

●

1991年5月5日 第1刷発行

1993年5月14日 第13刷発行

定価はカバーに表示してあります。

発行者——野間佐和子

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-01

電話 編集部 03-5395-3507

販売部 03-5395-3626

製作部 03-5395-3615

本文印刷——豊国印刷株式会社

製本——株式会社千曲堂

カバー印刷——半七写真印刷工業株式会社

デザイン——山口 馨

©小林深雪 1991 Printed in Japan

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えします。なお、この本についてのお問い合わせは文芸局文芸図書第四出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-198536-1

(文4)

講談社X文庫

16才♡子供じゃないの

：

小林深雪

16才♡子供じゃないの

CONTENTS

夢みる思い……………	6
憧れのパパとママ……………	14
大好きな水曜日……………	39
ファースト・デート……………	70
先生のクラスメイト……………	89
大人と子供……………	106
初めてのお化粧……………	121

ロンドンそれとも東京？.....	145
突然の贈り物.....	167
1年ぶんの思い.....	182
最後の授業.....	197
ラブ・ストーリー.....	215
あとがき.....	228
ガールフレンドになりたい!!.....	244

イラストレーション／まきむらくみ牧村久実

16才♡子供じゃないの

夢みる思い

まいにち。

EVERYDAY。

あなたのことを、考えてる。

あなたを見ているだけで、

わたしは、しあわせな気持ちになれる。

一緒にいられる日は、

それだけで、胸がいつぱいになる。

会えない日は、

あなたのことばかり、考えてる——。



降り積もったばかりの春の雪。

あまあいバニラのアイスクリーム。

真珠色のチューリップ。

純白のものを見るたびに、

わたしは、高野先生を思いだす。

先生は、白いシャツがよく似合うから――。

お陽さまの光をいっぱいに吸い込んだ、

洗いざらしの白い木綿のシャツが、

とても、よく似合うから。

その白いシャツが、

わたしには、とてもまぶしくて、

先生に会うたび、

わたしは、いつも、目を細めてしまうの――。



でも、

こんなにこんなに好きなのに。
ずっと、ずっと、片思い——。

毎週、水曜日。

さよなら。

って。

先生の背中に手をふるとき、

わたしは、胸が、きゅんツとせつなくなる。

帰りかけて、でも、別れがたくて、

いつも、そっと、振り向くけど、

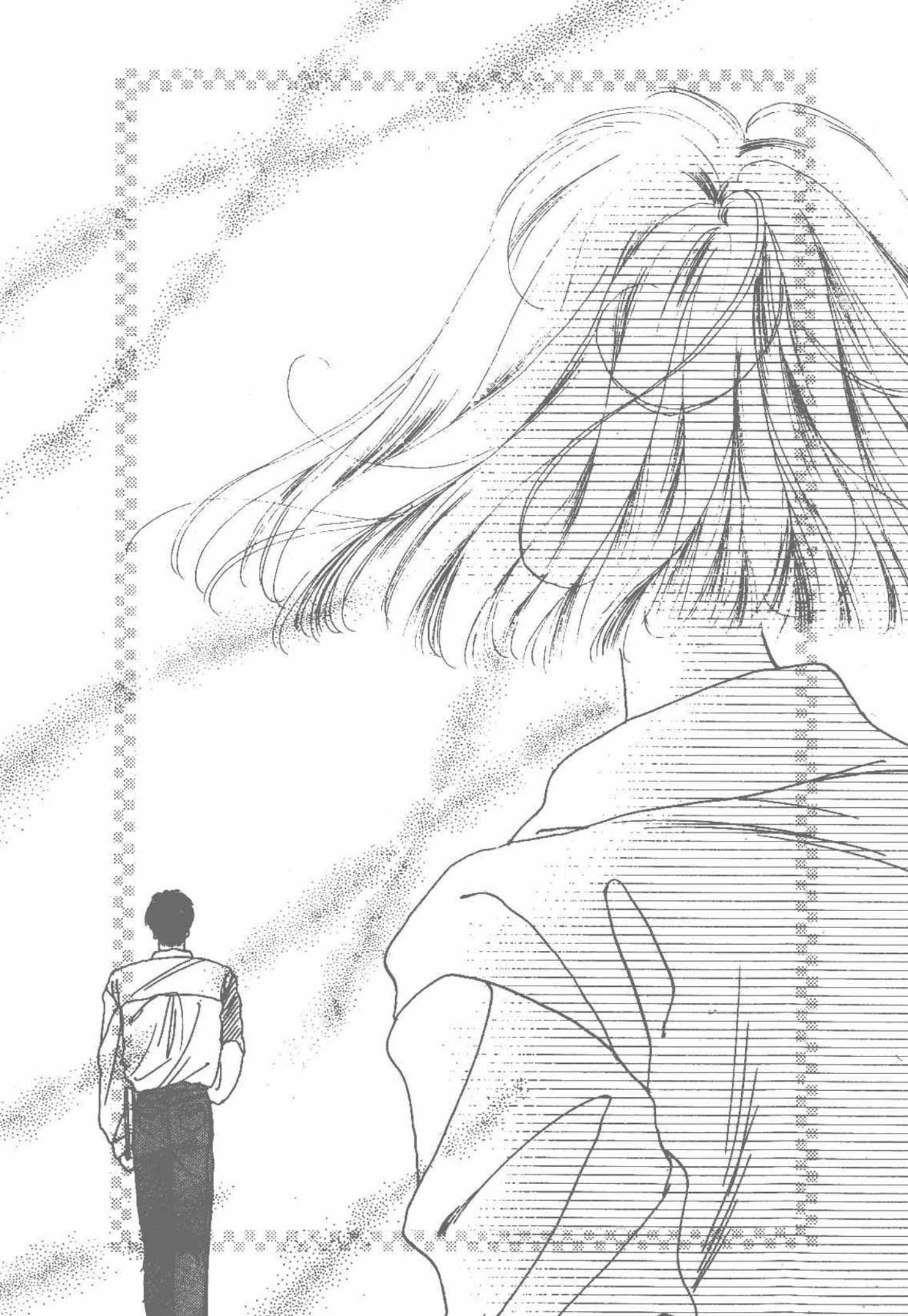
でも、先生は、絶対に振り返らない。

わたしは、そのことを、よく知ってる——。

振り向くのは、いつも、わたしだけ。

見つめているのは、いつも、わたしだけ——。

いつも、そう思い知らされて、



わたしは、少しせつなくて。
泣きたくなる――。

そして。

そんなとき。

大好きな先生の白いシャツの背中が、
わたしは、

一瞬、

とても、とても、嫌いになる――。

先生の名前は、高野裕。

六つ年上の大学4年生。

白いシャツがとてもよく似合う、そのひとは。

わたしの、家庭教師の先生です。



憧^{あこが}れのパパとママ

「わー、気持ちいい朝ーッ！」

きらきら。

朝の光がまぶしい。

5月のよく晴れた朝。

わたしは、うーんとのびをしたの。

キッチンのテーブルでは、白い湯気^{ゆげ}が踊^{おど}ってる。

白いお皿^{さし}の上の、黄色いオムレツ。

カリカリに焼いたベーコン。

青々としたクレソン。

トーストの焼ける香^{かう}ばしい匂^{にお}い。

「うーん。食欲倍増だああ♡」

愛用のミニーマウスのマグにコーヒーを注ぎながら。

わたしのおなが、ぐううつと鳴った。

わ、やだ。

わたしってば。

なんで、朝から、こんなに食欲があるんだろー。

太っちゃうかなあ。

まずいなあ……。

なーんて、ひとりブツブツ言いながら。

——でも、ママの料理って、ほんとおいしいんだもん。

仕方ないよねー。

なーんて、思いつつ。

キッチンの椅子いすに腰かけた。

フォークを持って、

「いったきまーす♡」

いそいそと、そのオムレツを食べようとした、ら。